

蚕の社・元糺の池

～三足鳥居を尋ねて～



踏み越えればそこは神域；神社の鳥居とは、日常の場と神聖な場を分かつ境界となる役目を果たしてきました。ですが、右京区太秦の蚕の社にはことさらに不思議な鳥居があります。それは三足鳥居。

三足鳥居とは、柱が三本ありそれを三角形の頂点として島木で繋いだ三角柱状の鳥居です。国内でもかなり特殊なもので、鳥居に囲まれて作られた三角形の空間に、凝縮された神域が現われるといわれます。

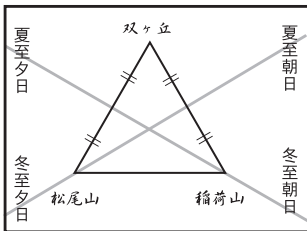
蚕の社境内の小さな森の中にそれは佇んでいます。本殿付近が明るく開け、乾いた白い石畳と砂利が敷かれているのは対照的に、森の中は鬱蒼と茂る木々が

日光を遮り、土と苔の匂いが鼻をつきます。その中心の池・元糺の池もとただすに三足鳥居はあります。今は池の水は涸れていますが、そのかわり池底に足を踏み入れることができ、間近に鳥居を眺められます。ひっそりと佇む鳥居を見ると、往時の水面に映える姿を想起せずにはいられません。しかしなぜこのような鳥居がたてられたのかは未だ謎に包まれています。

そもそもこの神社はどういう神社でしょうか。正式名称・木島巫天照御魂神社、通称蚕の社。朝鮮から渡ってきた秦氏によってこの地で養蚕業が栄え、養蚕の神をここに祭ったのが始まりです。今でも地元の養蚕業者の方々によって崇拝されています。

さて、この神社、元糺の池の“糺”という字にピンと来た方もいるかもしれませんが、先月紹介した下鴨の“糺の森”と縁があります。もともとこの地にあった祭祀を下賀茂の糺に移したためこう呼ばれるようになったといわれています。古代の寺社にも物語があります。その物語を探してみるのも面白いでしょう。

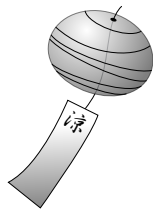
ローマンはまだまだ尽きません。いかなる根拠か、この神社がなんとユダヤ人の遺跡だという声も存在します。この神社が、遥かカナンカナンの地の友人が日本に残した足跡だと思いたい人は、このことについて調査してみたいはかがでしょうか。ローマンは広がっていくばかりです。



▲三足鳥居の図解
各頂点が秦氏の聖地を。中線の延長線上が冬至と夏至の入没の方向を指す。



かんたん Cooking



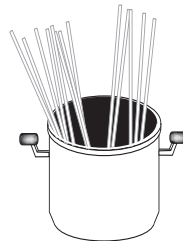
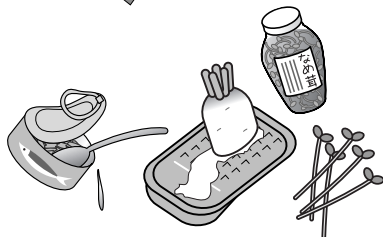
冷製

和風ツナおろしパスタ

材料 (1人分)

- パスタ (100g)
- 缶詰ツナ (一缶)
- 味付えのき茸 (大さじ3)
- 大根 (以下、量は好み)
- かいわれ大根
- 青じそ味ドレッシング

暑さもいよいよ本格的になってきましたね。今回は、茹でた麺に具をのせるだけのとっても簡単なパスタです。冷たくてさっぱり味で栄養もとれる、三拍子揃った夏にぴったりのメニューです。



- ①大根をすりおろし、ツナの油を切っておく。かいわれ大根は根を切り水洗いしておく。
- ②パスタを柔らかめに茹でる。茹で上がったらずみずで冷やす。
- ③具を盛り付けて最後にドレッシングをかけたら出来上がり！

はみだし
すてーじ

ガチャピンになりたい

(E・1 ゴルゴ14)